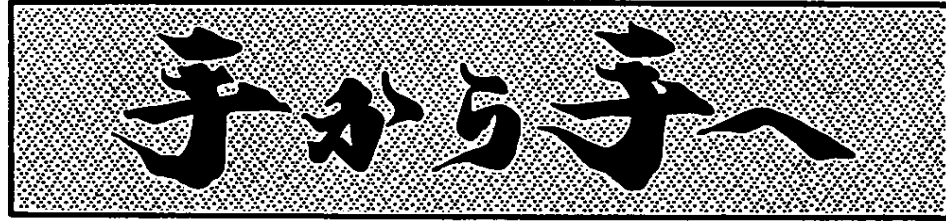


この『手から手へ』は全教職員に配布しています。
まだ組合に入られていない方、ぜひ加入してください！

発行／公立大学法人
首都大学東京労働組合
TEL＝042－677－0213
Eメール＝union@apricot.ocn.ne.jp
HP＝http:// tmu-union.org/



第 2861 号

2020 年 5 月 8 日

オンライン授業の準備は万全でしょうか？

当面、すべての授業はオンライン

新型コロナウイルスの拡大が収束のメドが立っておらず、非常事態宣言は5月31日まで延長されることが決まりました。

東京都立大学では、4月16日、教務課より掲示された山下英明副学長からの文書で、「2020年5月11日(月)から当面の間、原則としてすべての授業をオンラインで配信し、学生が自宅等においてリアルタイムで受講する形式により授業を実施」することになりました。当面は5月7日、8日に予定されている当初ガイダンスや5月11日からのオンライン授業に向けた準備に学内のすべてのスタッフが取り組んでいると思います。しかし、オンライン授業の本格的な実施は、東京都立大学に限らず、大多数の大学が初めて体験することになります。どのような問題が発生するのかは、始めてみないとわからないという心配はつきません。

4月23日の朝日新聞には、「オンライン授業や企業の在宅勤務によって、昼間の通信回線利用が4割増えた」と報じています。東京都公立大学法人で働く教職員のみなさんの中にも、「自宅でネットにつながりにくくなった」ことを実感されている方もあるでしょう。5月11日以降は、約280万人の大学生のほとんどがオンライン授業をリアルタイムで受講することになります。

オンライン授業を実施のための準備は？

オンライン授業を実施のための準備が万全でしょうか。地方から上京し都内で一人暮らしをする学生や、十分な学習環境と通信環境を確保できない学生に対するケアは十分でしょうか？

- 1) オンライン授業を実施する設備(PC、Webカメラ、マイク、ルータ等)の確保の問題
- 2) 常勤教員と非常勤教員との授業実施における職場環境の格差の問題
- 3) 学生の受講における通信環境や学習する場所に関する格差の問題

などでさまざまな問題が発生することが考えられます。

2億2000万円の予算を確保

首都大学東京労働組合は5月7日(木)、東京都立大学における準備状況について、当局に問い合わせました。

学生支援については、「5月6日まで、学生の準備状況についての相談窓口を設けた。70名の学生から準備の整わないとの要請があり、PCの貸し出しを行う」「図書館は引き続き閉館とするが、5月7日より、郵送による資料の貸し出しを実施する」「講義資料のプリントアウトの場の提供については、物理的に無理で、対応できない」また、「授業料については、納入期限を5月末まで延期しており、さらに延期するか検討中である」との回答が寄せられました。

教員の準備状況については、「4月中に確認を終えており、準備ができています」「大学から、オンライン授業を発信する場合は、非常勤講師を含めて教室を使えるようにしている」。予算については、「補正予算で、オンライン授業のために2億2000万円確保した」と答えました。

問題があれば、組合にも情報を

オンライン授業開始にあたって、学生に通信環境を整えるための費用負担を実施している大学、非常勤講師に対してオンライン授業に必要な資料の費用を一律で支給する大学もあります。

人々の健康と安全を守り、都内の医療崩壊を防ぐために、国や都の3密を防ぐための要請に最大限に協力していきながらも、そのようななかでいかに大学における教育活動を維持し、学生の学ぶ機会を保障するのが、喫緊の課題となっています。

首都大学東京労働組合では、オンライン授業の準備や実施に関わる問題を集約・共有し、学科や部局などの組織、教員のそれぞれの職階、教員・学生の立場を超えた対応をともに検討したいと考えています。オンライン授業の実施で生じた問題は組合にも情報提供をお願いします。一人ひとりの声が当局を動かす力になります。ご協力をお願いします。

- 組合名称は
次期定期大会にて変更予定です
- 6月末に予定していた定期大会は、諸事情を
勘案して延期し、開催日時は、決まり次第お知らせします